

報

第三千四百六十六號
 明治廿四年六月十日 (水曜日)
 舊曆辛卯五月十四日 (丁卯)
 入山前四時二十七分
 入山後六時五十四分
 月入前七時三十分
 月入後七時五十三分
 通欄千七百七十三分
 (西曆一千八百九十一年)

が故に伯の如きは評判の一點よりすれば兎に角に當
 の人氣役者ありと云はざるを得ず然るに此人氣役者
 の伯の進退を見るに我輩の意を得ざるもの少から
 るは近來の舉動より心事を推測すれば全く政治の局
 當るを厭ひ只管ふれを避けんとするもの如くなら
 べし伯が年來の宿願として全く政治上の生活を止む
 ることは到底難かる可し喩へば飲酒喫煙の癖あるもの
 には其慾を絶てば之が爲めに一時の疾病を免れるが
 如く生來の政治家が政治の生活を止むれば之と同時に
 政治上の變化を來さざるを得ず人間生活の原則にして
 人可らず伯の友人井上伯の如きは同じく才名の政治
 家なれども頗る思切りに富み且鄙事に多能にして商賈
 業あとの経験も少からざるよしなれば或は全く政
 治の事を斷念するも政治以外に生活の餘地もあるとな
 るべし伯の如きは絶つに絶たれぬ因縁のある其上に片
 才氣は動もすれば老婆心を促して自から禁せざるも
 ありが如し即ち世間に評判の喧しくして隨て黒幕云
 の沙汰もある由縁ある可し故に伯が昨今の心事は淡
 山洒落にして毫も他念なしとするも世間一般に於ては
 之を認めざるのみならず我輩の見る所にて其遂に池
 中の物に非ざるを知り一日も早く政治の表面に身を現
 家として技術は世間の夙に認むる所にして頻りに其
 術を喋々するものは畢竟黒幕内の所作を厭ふて再び表
 面の技術を見んとするに外ならざればあり即ち人氣の
 水が消せざるものにして政治家が進退を決するの機會
 なりと云はざるを得ず往年老西郷の辭職して鹿兒嶋に
 退隱するや世間の評判は非常にして私學校黨の連中は
 云々でもなく四方不平の徒は何れも西郷の起つてと
 望まざるはなく其本等の變あるに際して桐野藤原
 の輩などは頻りに其決斷を迫りたれども西郷は機會未
 だ到らずとて容易に動かさざりしと云ふ蓋し十年の一舉
 動は西郷の眞意に出でたるや否や我輩の大に疑ふ所な
 るも單に人氣の一點より見れば若しも西郷が懷沈持重
 して動かさずして三四年を経過したらんには世態の變遷
 と共に天下の人氣は次第に去りて遂に動かんとするも
 動くの機會を失したるや疑ふ可らず今日の場合は固よ
 り同様の談に非ず伊藤伯の事は兵馬に非ず戰爭に非ず
 單に政治上の運動あれども政治家に人氣の去り易きは
 古今一轍にして當局者の宜しく注意す可き所なり或は
 伯の心中に於ては今日未だ表面に露るの時に非ずと
 爲し他日機會の到來を待て大に爲す所あらんと欲する
 やも知る可らずと雖も前來述べたる通り今の機會に
 して猶ほ躊躇決せざるもあらば一般の人情は伯が
 黒幕の所作を厭ふが如く又その表面の舉動をも厭ふに
 至る可し人氣一たび去るときは假令自から起んとす
 るも恰も明治十年の西郷が明治二十年の新天地に西南
 の騷亂を演せんとするに等しく俗に云ふ體交出し後れ
 と爲りて機會は既に晚しと云はざるを得ず當世の政治

家たる伊藤伯にして若しも此機會を誤るもどもあらば
 決して進退出處の機を得たるものと云ふ可らず我輩は
 伯の一身の爲めに謀りて不利を云ふのみに非ず天下に
 一個の政治家を空ふるを惜しむ者なり

豊筑鐵道と九州炭礦

九州炭礦の權柄は終に三菱社に歸す可しとて經濟社會
 の疾くより注目する所ありしが近日に至りて更に一段
 の勢を加へたるものあり即ち豊筑鐵道會社改正の一事
 にして抑も該鐵道は筑前若松港より起りて直方に至り
 夫れより二線に分れて一は豊前の田川郡に達し一は筑
 前の飯塚に至るの計畫にして其營業は乗客よりも寧ろ
 荷物を目的とする其荷物の中にも重なるものは石炭な
 るが故に之を稱して九州炭礦鐵道と云ふも事實に違は
 るものあり鐵道の發起人等は數年前より右の目的を
 以て株主を募り會社の組織成りて工事に着手し資本金
 百萬圓を五十圓株に分て既に一株に付き三十圓までを
 拂込み着々歩を進めんとして意の如くならず其次第は
 今更ら云ふ迄もなく例の株式恐慌の爲めに金融閉塞、
 隨て拂込みを怠るものもあれば隨て株券の價は大に下
 落して今は會社の進退難谷の流行病に悩むものあり
 然るに其機會に當りて現はれ出でたるは金力無盡藏と
 稱する三菱社にして漸く其下落したる株券を引受け既
 に全社を左右す可き程の權利を握りて乃ち社務の改正
 に着手し役員等も大抵三菱社に續ある人物に取替へて
 恰も事を更始したるものとされば工事の成を告るは遠き
 にあらざる可し此鐵道にしていよいよ運轉を始むると
 きは目下三菱所有の炭礦新入給田の二礦の出炭を運送
 し尚ほ進んで白井の大礦を採掘するも自家の鐵道を利
 用するに等しき便あるのみならず凡そ豊筑の石炭は大
 抵皆ふれに依頼せざるを得ず左あきだに豊筑の諸炭礦
 は資本の不充分なるが爲めに利を見ざるもの多く甚だ
 しきは唯借區の名義を所有するのみにて採掘に着手す
 るも能はざる礦主さへある程の有様にして今後の成
 行は到底三菱社に併せらるゝ外に道なかる可しと經濟
 社會の竊に豫期する所の三菱が完全無缺の大炭礦を
 所有する上に運搬の權力をも握るとあれば是れを所謂
 鬼に鐵棒、虎に翼の、に現れず諸炭礦は大抵に壓倒
 せられて次第に衰弱に陥り窮迫の餘りに三菱社に賣ら
 んとすれば不用なりと謝絶せられ遂には實を捨て、還
 述するに至る可し即ち該社が九州炭王の位に即くの日
 あり但し是れは數年の後の想像あれども目下氣の毒あ
 るは豊筑鐵道株主中の或る部分にして辛苦經營した
 る創業の勞も今は水泡に歸するのみならず社務改正以
 來は約束の如く拂込みを促され三十圓拂濟の上で當六
 月に五圓又八月にも五圓と公然通知せられて以前の三
 十圓株を賣らんとすれば僅に十七圓内外に過す拂込み
 を怠れば公賣處分に半金を失ひ、株の所有を維持せん
 とすれば八月迄に十圓の金策に窮す、射利の起業は今
 日却て身を亡ぼすの媒介と爲り仰て天を怨む可らず俯
 して人を咎む可らず鐵道會社成規の命する所あれば自
 から作る災と云ふの外なし畢竟時運の然からしむる所
 なりと云へ本人等が會社流行の熱に乗じて分外の大
 業を企てたるも災難の玉子され其玉子の解化したる
 今は唯自から勞して他を利するの奇談あるのみ此邊の
 事相を見れば山陽九州等の鐵道も金に困らぬ大株主と
 生して會社の全權を占め乃ち工事を急にして續々拂込
 むを促がしたらば俗に云ふ槍栗算段の株主は忽ち眼

して所有の株を賣出し株式市場更に下落の變を見るや
 も計る可らず随分用心す可き事あり

雜報

○正誤 左の通り申來りたれば前報を取消す
 本月九日發刊時事新報欄内皇太子殿下の御漫遊と
 題する記事は事實無根に付明日之紙上に此全文を掲げ
 取消あるべし
 明治廿四年六月九日 宮内省調査課
 時事新報社

○高知商業會議所設立の認可 明治二十三年法律第八
 十一號商業會議所條例に依り本年六月五日高知縣下高
 知商業會議所設立の件を農商務大臣に於て今度認可せ
 り其設立地の區域は高知市及土佐郡下知村、江ノ口村
 小高坂村にして會員の定数は三十名ありと

○東京株式取引所臨時總會 は種々の事情より退去運
 延したるも來七月一日よりは新定款實施の筈にて夫迄
 には是非とも開會せざるべからざるに付同所役員は運
 きたる十五日迄には開會の決心なりしが議案の草稿に付
 き未だ少く完成せざる處あるに付尙ほ期日は何日と
 も確定せずと云ふ又仲買身元金に付ては多き仲買中に
 は一時に千二百圓の大金を收め兼ねるものもあるべき
 に付種々便法を求め居たるが今般臨時會に提出すべき
 議案中には仲買人身元金は必ずしも現金、公債を差入
 るゝに及ばず仲買人の便宜にて取引所が確實と認めら
 る株式を差入るゝも効あるとの條項あるよし

○徳嶋通信 目今商業社會の一大問題とありし久次米
 銀行現時の有様は細大流さず諸新聞に記載せると以て
 別に記せず只その結果如何との點につき彼は探聞する
 處を記さんに各株主非常の奮發を以て一同働進、不働
 産を債權者の保護に投出しみの事件の落着に至るまで
 は銀行を他に譲渡し又は買却する等の事を爲さざる事
 一決し櫻井本縣知事之れを債權者に保証し且つ之れが
 登記を願出る者あるも中澤裁判所長に照會し置きて斷
 然其の登記を差留むる等の事を以てし稍々債權者に安
 心と與へたる模様にて少しく望みあるの勢ひに向ひた
 るも現時の處開業に要する三十萬圓計りの金圓は未だ
 整ひたるにあらざるに付今日の處にては未來を確と豫
 言し難き景況なり○當地第一の物産たる葉藍は本年
 はまづ上出來の方に農家は昨年引替へ好景氣を表
 し居れり然るに去月來天氣續きの爲め水涸を來し井水
 蓋し將に枯死せんとするの不幸に遭遇するの箇處も多
 くあるやにて大に心配せしも幸に本月に入り去る二日
 夜より四日まで降雨ありたる爲め大に生氣を得今日の
 處にては全く復活の模様にて農家は萬歳を唱へ歡び居
 れり且其道の人に聞くに當時は恰も葉藍に最大の害な
 る西風の吹く季節あれども幸に其害あくば葉藍は近年
 の豊作あらん然のみならず昨年印度産の藍不作ありし
 が爲め市價にて二割方の騰貴を成し居るゆゑ本年は多
 く内國産の葉藍を用ふるの見込あり彼是當地の藍作は
 頗る好景氣を呈するからんと一般に歡み居れり○葉
 作は近年なき豊作にして一般農家は人氣甚だ活潑な
 りし處然久次米銀行の恐慌、事件起りし爲り農商な
 ども大に憂色を催せる有様あり

○高知通信 (六月五日號)
 知事の巡廻 調所本縣知事は昨年の水害地帶多高岡兩

郡地觀察	諸氏は去	きたり同	比直枝同	鄭川崎	刑事被告	有罪に平	嶋村信推	浦戸は	炭泊者の	年より	爲り測量	大學校長	集せる市	兵大尉	○横濱	統計は	一此表	一此表	一此表
------	------	------	------	-----	------	------	------	-----	------	-----	------	------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----